國學院大學学術情報リポジトリ

現代中国語の動詞の動態的持続性による「V+“上"」の意味変化

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 鈴木, ひろみ, 本間, 由香利
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000786

現代中国語の動詞の動態的持続性による「V+“上”」の意味変化

鈴　木　ひろみ・本　間　由香利

要旨

关于出现在动词后面的“上”在句中的语法功能，已有很多的研究成果，但大多没有涉及到动词的动态持续性。笔者认为有很多因素可以影响到“上”的语法功能，其中动词的动态持续性也是影响“上”的语法功能的一个因素。所以，本文从动词的动态持续性及句中有无处所宾语的出现来解释“上”在不同的句中、和不同的动词搭配时产生的语法功能的变化。

キーワード

动词的动态持续性，“闭”类动词，“绣”类动词，“走”类动词，处所宾语

1．はじめに
2．問題提起
3．“上”が動詞に補うもの
4．動態的持続性について
4．1 “闭”類
4．2 “绣”類
4．3 “走”類
4．3．1場所性目的語を伴わない場合
4．3．2場所性目的語を伴う場合
5．おわりに

1．はじめに

現代中国語の動詞と共起する“上”に関しては、多くの研究成果が見受けられ、“V＋上”の“上”の文法的働きに関しては、大きく二つの考え方[(1)]に分けられるようである。一つは「“上”を方向補語とし、方向性／結果／状態変化を補う働きをする（荒川1985、刘1998など)」と、もう一つは「“上”を準アスペクト助詞」とし、開始相、持続相、完了相を表す、考え方である（房1981、李1990、张2002など)。前者は動作の様態の変化に着目し、後者は文の中における“上”が果たすアスペクト性に着目しているのである。しかし、様態とアスペクト機能とはいずれにしても、時間の経過により生じるものなので、内在的なつながりがあると考えられる。つまり本稿では“上”の直接的な働きとしてアスペクト機能があり、間接的な働きとして、結果や状態変化をもたらす、と考えるに至ったのである。

文の形式（“把”構文など)、構成要素（副詞、介詞など）や語用面など多くの要因が動詞と共起する“上”の文法的働きに影響を与えるが、本稿は、動詞の動態的持続性や場所性目的語との関連性に着目しながら、“上”の文法的働きを考察するものである。

2．問題提起

二つの考えの内の一つ、先ず、「“上”の文法的働きを方向性／結果／状態変化を補う」とする先行研究の中のうち、以下、刘1998より引用する（刘1998p.1～31と p.81～p.116より要約した)。

「“上”の文法的働きは方向性（方向補語の最も基本的な働きは方向性を示すことであり、人や物体が動作によって移動する方向を示す)、結果（動作によってある結果をもたらすことや、ある目的の達成を示す)、状態変化（空間的意味とは無関係であり、動作や状態は時間軸上における展開や持続を表す）である」

と述べ、更に、“上”と共起できる動詞の細かい分類に至っている。

もう一つの「“上”を準アスペクト助詞」とする研究では（李1990p.31～p.55より抜粋)、“上”と共起できる動詞を大きく２つに分けている。そしてその意味は“吃、吵、玩、夸、骂、哭…”と共起する“上”は「開始／持続相」、“关、锁、合、缝、埋、碰…”と共起する“上”は「完了相」であると述べ、以下のようにまとめられている。

・動詞＋開始／持続相“上”＝語の意味＋アスペクトの働き

・動詞＋完了相“上”＝語の意味＋アスペクトの働き＋制限義

では、ここで先行研究を踏まえて、“走”を例に“上”と共起する場合を見てみよう。

（1）江涛走上高台**阶**，拉了一下门**铃**。（通）＜江涛は階段に上がり呼び鈴を鳴らした。＞
（2）雷**锋**急忙走上前**对**她**说**：“大嫂，你别急，跟我来！”。（**实**）＜雷峰は急いで彼女の前に来て「おばさん、焦らないで僕について来て。」と言った。＞
（3）他下了汽**车**自己走上了。（**汉**）＜彼は車を降り歩き始めた。＞
（4）那**块**表又走上了。（**汉**）＜あの時計また動くようになった。＞

刘1998は、方向性を示す“上”に関して二つの場合があることを指摘した。
A）低い場所から高い場所への移行。立脚点を低い位置にも、高い位置にすることもできる。
B）目標に近づく。目標地点や移動を行う前の位置を立脚点とすることができる。
（1）に関して、刘はA）の説明が当てはまると説明しているので、この例文中の“上”は「下から上に上がる」過程のみを表し、目的地の到達に特に関与しないと解釈できる。しかし、インフォーマントによると（1）は“高台**阶**”という位置に達したことも情報として聞き手に与えており、この文は聞き手に“江涛”は“高台**阶**”に「上がる」という方向性を示すと共に、目的地である“高台**阶**”にすでに到達していることも含むという。もし、“上”は方向性しか表さないのであれば、後半の“拉了一下门**铃**”という文につなげるのは不自然である（（2）も同様）。このように考えると、B）の解釈の方が妥当である。この（1）、（2）は動詞＋“上”と共に場所を示す目的語が後置されている共通点を持つ。

また、（3）（4）の“走上”について、刘1983は、「動作の開始／継続」を表すと説明したが、刘2001では、「状態変化」を表す、と異なる見解を示した。同じ“走上”でも、このような説明上の違いがなぜ生じ、そして、どちらの説明の方が適切であるのか、という疑問がわく。

この多義性の問題については、李1990も刘1998も触れていない。また“**绣**上花了。”を例にとると、これには二つの解釈をすることができる（①刺繍をし始めた。と②花を刺繍した。である）。このような多義性を持つ文に関して、史1993は、“坐上了小汽**车**。”は“坐上（了**电车**）。”や“**骑**上了自行**车**。”と異なり、二つの意味を含む、①具体的な動作の完了を示す（「車に乗った」）と、②社会や歴史背景と関連性があり、地位等が変化した際に、車が交通手段となったことを表すと説明した（「車に（金銭的、地位的に）乗れるようになっ

た」)。しかし、このような説明では、“绣上花了。”の多義性を説明には不十分であるように思う。

本稿では、動詞の動態的持続性に着目し、「“上”が動詞に何を補うのか」、と「なぜ“上”は文によって、異なる働きをするのか」、を明らかにしたい。

3．“上”が動詞に補うもの

動詞は“上”に何を補うのかを考える前に、“上”はどのような要素を持つ動詞と共起できるかを見る。

马1981で“上”が「非継続動詞」と分類した動詞“死、伤、断、完、丢…”と共起できないとしたことから、本稿においては、先ず動詞のアスペクト性から“上”との共起条件を考えたい。马1981より更に詳しく分類した郭1993は、動詞には起点（inception)、終点(finish)、継続・持続（duration）の三つの連続性のある要素を持つとし、〈〈动词用法词典〉〉中の動詞を“了／着／过”などと共起できるか否かを基準に、無限構造(2)、前限構造(3)、双限構造(4)、後限構造(5)に分類した。

この4種類に分類した動詞は“上”は共起できるかそれぞれどうかを考察したところ、無限構造に分類した動詞は“上”と共起できず、そして前限構造や後限構造に分類した動詞は“上”と共起しにくいことがわかった。つまり、“上”との共起条件を満たす動詞は内部過程に「起点／継続／終点」の三つの要素を満たす動詞であることがわかる。

郭1993からもわかるように、動詞の内部過程である「起点／継続／終点」とは、時間上の展開により起こる可能性のことである。例えば、“爬”という動詞に関して、動作の様態「手（と足）を地につけて進む」を動詞から読み取ることできるが、この動詞だけでは「手（と足）を地につけて進む」という動作の「開始／終了」を表すことはできないが、アスペクト助詞と共起することによって、時間上の展開を表すことができるようになる。そこで、筆者は李1990の見解を借り、“爬＋上”の“上”を準アスペクト助詞とする。

马1981が方向補語を結果補語と見なすほどに“上”の働きは結果や状態変化を表すと考えるのが定着している。確かに“眼前一片暗淡，大幕拉上了。”（刘1998, p.85）のような例について、“拉”という動詞は“上”と共起することによって「幕を下ろした／下ろした」という結果に至ったと考えられる（または、ある種の状態変化とも考えられる)。しかし、結果補語“洗干净”と比べてみよう。“干净”という結果は“洗”によって、直接引き起こしたこと（つまり、きれいになったのは、洗ったためである）であるのに対して、“上”は“拉”によって直接引き起こされた結果ではない。“上”の基本意義は「下から上への

移動」であるため、結果を表すことはできないのだが、“上”が準アスペクト助詞として機能することによって、「幕をひく」という動作の終了を示し、それにより「幕が閉じる」という結果が生じたと考える。様態補語も同様に“洗得干**净**”の“干**净**”は“洗”によって直接引き起こした状態であるが、“…，他听**见**院里破口**骂**上了。”（刘1998, p.105）では、“上”は“**骂**”によって引き起こした状態ではなく、“上”は“**骂**”という動詞に開始／継続相を加える働きをし、それによって、“**骂**”という動作が始まったことが表される。つまり、結果補語や様態補語の成分となる補語は動詞と直接関連性があるのに対して、“上”はまず、動詞に時間上の展開点を補い、それによって、結果や状態変化をもたらしたので、「結果や状態変化を引き起こす」ことは“上”の間接的な働きであると筆者は考える。

李1990では、“上”は「開始／継続相」と「完了相」の働きを持つと述べたが、その理由について述べてない。以下、筆者は先行研究を踏まえて、動詞の動態的持続性に着目し、いかなる場合に開始／継続相、いかなる場合に完了相を表すのかについて考察したい。

４．動態的持続性について

马1981では、動賓構造の時間賓語は、「場合によって①動作の持続時間、②動作完了後の経過時間、③動作によって引き起こした状態の持続時間を表す」と二つの継続性があることを指摘した。そして、李1990では、「状態動詞と動作動詞はいずれも時間上において継続することは可能であるが、状態動詞の継続は静態的持続であり、動作動詞の継続は動態的持続である」と状態動詞と動作動詞の違いについて、静態的持続性と動態的持続性の観点から説明した。

筆者は“上”の文法的働きに影響を及ぼすのは、動詞の動態的持続性であると考える。動詞の動態的持続と静態的持続については“着”と共起した際に、動態的持続になるのか、それとも静態的持続になるのかを基準に考えたい。木村1983、“着１”は動態的進行、“着２”は静態的持続を表すとし、郭1993では更に“着３”の存在を指摘した。それに対して、方2000などは、働きは異なるものの同じ“着”であるという見解を示した。方2000では、静態的特徴（動詞の内部過程が均一である（homogeneous））を持つ動詞と動態的特徴（動詞の内部過程が不均一である（heterogeneous））を持つ動詞があるため、“着”と共起した際に違いが生じてくる。と述べ、下記のように分類した。

１）Ｖ静態＋“着”

２）Ｖ動態＋持続性＋“着”

３）Ｖ動態＋瞬時性＋“着”

筆者は先行研究を踏まえて、動態動詞のみに焦点を当て、以下のように“闭”類、“绣”類、“走”類に分類[(6)]した。なお、動詞によって、連続的に動作を行うことによって目的を達す場合は一回ごとの動作に注目するのではなく、連続的な動作に注目して分類する。

A）“闭”類

この類に属する動詞（闭、躺、盖、叼、跨、披、站、顶、关、合、锁、碰、端…）は動態的特徴を持つが、動作を行う時間は短い。“着”と共起する際は静態的持続を表す。例えば、“闭着眼睛”これは「閉じる」という動作ではなく、「閉じている状態」を表す。

B）“绣”類

この類に属する動詞（插、绣、刻、画、划、写、织、印、抄、种、撒、挂、贴、捆、系、穿、摆、戴、拿…）は動態的特徴と静態的特徴を持つため“着”と共起する際には静態的持続と動態的持続の二つの可能性が生じる。例えば、“绣着花”は「花を刺繍している動作」を表す場合と「花模様が布などに刺繍されている状態」を表す場合がある。

C）“走”類

この類に属する動詞（走、跑、飘、跳、吃、喝、学、叫、问、演、洗、喊、扫、拉、吵、踢、蹦…）は動態的特徴を持つ。“着”と共起する際には動態的持続を成す。例えば。“走着”は、「動作の持続」である。

次に上記のそれぞれの類と“上”が共起する際の“上”の働きを見てみよう。なお、動作の瞬時性と持続性は絶対的なものではなく、相対的であると考える。

一般的に静態動詞と言われる心理動詞の“爱、喜欢…”の動態的持続性や静態的持続性はあいまいであり、かつ、先行研究においても、“他爱上了农村。”と“爱上”に関して、八百词1980は「結果を表す」と記述している。刘1983は“这么说，他是爱上你了。”の“爱上”は「動作の開始と継続を表す」と記述したが、刘1998では“…、我逐渐地爱上了她。”の“爱上”は結果を表すと異なる見解を示したため、本稿の考察対象から除外し、改めて論じこととする。

4．1 “闭”類

先ずA）“闭”類について考察する。

（5）跨上马背飞奔而去。（八）＜馬に飛び乗り素早く去って行った。＞

（6）她用被子盖上道静的上身…（通）＜彼女は布団を道静にかけた。＞

（7）把窗户关上。＜窓を閉めて下さい。＞

（8）这辆车怎么在这站上啦。＜この車はなぜここに止まったのだろうか。＞

（9）你这家伙，碰上你，我就倒霉。（通）＜おまえというやつに会うと、私にはいやな事が起こる。＞

(10)你也把中队长的肩徽戴上吧。＜君も中隊長の肩章をつけなさい。＞

(11)你怎么在这儿躺上。（汉）＜きみはなぜここで横になったの？＞

インフォーマントによると、これらの“V ＋上”は一般的に動作の完了を表すという。つまりこの類の動詞は“上”と共起することによって、動詞の動態的持続が終了したことになるのだが、なぜ“上”と共起すると、動詞の動態的持続の終了を表すのか。これは、“上”に原因があるのではなく、動詞自身の動態的持続性（例えば、（5）（6）（7）（8）などの「跨る」、「かける」、「閉める」、「立つ」などの動詞が表す動作を実行するための時間が短い事）によるものであると考える。（8）の“站”という動詞を見てみよう。この動詞に関して、马1981では、「強持続性動詞」と分類した。確かに「立つ」という静態的持続性（状態の持続）は長いが、動態的持続性（動作そのものを行う時間）は短い。次の(11)“躺”は、動作の開始と解釈することができるが、これは状態の開始であり動作の開始ではないと考える。

これらの動詞の起点、継続、終点を図１のように表す。

（図１）

起点 終点

図１は、動態的継続する時間が短いため、開始点よりも動作の終了点に重きがおかれる。そのため動作の終点しか認識することができず、この類の動詞が“上”と共起した際は、動作の終了を表すのである。

刘1998は、これらの動詞＋“上”は結果意義を持つと説明したのだが、“他闭上眼睛不说了。”の例において、“閉じる”という動作の動態的持続性が短いため、“上”と共起した際は「目を閉じ始めた」ではなく「目を閉じた」と動作の終了を表すので、筆者は結果と考えるよりも、静態的持続の開始と考えるほうが妥当ではないかと思う。

なお、(12)文中の“端”は“闭”類であるが、この例文中の“端上”は具体的な動作ではなく、“端上盘子”は「ウエイトレス」という職業を表すので、メタファー的な使い方である。

(12)她在菜**馆**端上**盘**子了。(**汉**) ＜彼女はレストランでウエイトレスをし始めた。＞

なお、動詞によって幾つかの意味を持つ場合がある、例えば(６)の“盖上”は「布団を被る」という意味であるので、動態的継続が短く、動作の終了を表すが、“他盖上房子。”(彼は家を建て始めた。) という文の“盖上”は「家を建てる」であるので、動作の動態的持続が長いため、①彼は家を建て始めた。②彼は家を建てた。となり、次に説明する“**绣**”類に入る。

４．２“**绣**”類

(13)他**们**已**经**插上秧了。(**汉**) ＜彼らはすでに田植えをはじめた。＞
＜彼らはすでに田植えし終わった。＞

(14)在两个村子之**间**划上了地界。(**汉**) ＜二つの村に境界線を引きはじめた。＞
＜二つの村に境界線を引いた。＞

(15)**今**年他**们**也种上大豆了。(**汉**) ＜今年彼らも大豆の栽培を始めた。＞
＜今年彼らも大豆を栽培し終えた。＞

(13)～(15)の“插上”、“划上”、“种上”は、それぞれ動態的持続の「開始」と動態的持続の「終了」の二つの観点から文を解釈することができる。この類に属する動詞は、動作自体が長く続くことができるので、“上”は開始／継続相と完了相の二つの働きをすることができる。

しかし、同じ類に属する次の(16)と(17)には多義性がない。

(16)小**红刚**吃完**饭**就在那儿**绣**上花了。(**汉**) ＜紅さんは御飯を食べる終わるとすぐそこで、刺繍をし始めた。＞

(17)春**节**前爸爸又把那**张**古画挂上了。(**汉**) ＜春節前、父はまたあの古い絵を掛けた。＞

この二つの例において、副詞“就”と“又”の存在によって、“**绣**上”の“上”は開始／継続相、“挂上”の“上”は完了相の働きをするように限定されているからである。

これらの動詞の起点、継続、終点を図２のように表すことができる。

(図２)

起点　動態的継続　終点　静態的持続

また、この類の動詞は(18a)(18b)、(19a)(19b)のように文中成分の位置が変化することによって、“上”は異なる働きをする。

(18a)新衣服做上了。(新しい服ができた。)
(18b)做上新衣服了。(新しい服を作り始めた。)
(19a)毛衣**织**上了。(セーターを編み終わった。)
(19b)**织**上毛衣了。(セーターを編み始めた。)

なお、二つの意味が生じる場合には、一般的に発話する際には起点よりも終点に注目する特徴を持つ。これについて、池上1981P. 126は、「＜起点＞と＜到達点＞という概念は、＜変化＞の始めと終りという意味で論理的には完全に対等のものである。しかし、言語に現れている限りでは、人間の心理は圧倒的に＜起点＞より＜到達点＞の方に傾斜しているように思われる。これはまず共時的なレベルでは、＜到達点＞がどちらかと言えば＜無標識的＞なものとして扱われるのに対し、＜起点＞は＜有標識的＞な項としてふつう扱われるということに認められると、このよう論じている。

４．３“走”類

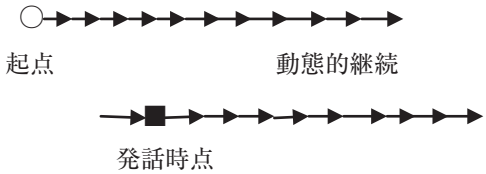
ここに分類する動詞には静態的持続性がない。この類の動詞は動態的動詞持続性が強いため、起点と終点は重なることはないので一般的に動作の開始／継続を表す。しかし、場所性目的語を伴う場合は動作の終了を表す。“跑”という動詞を例にみてみよう。“他跑上了。”は動作の開始を表すが、“他跑上二楼”と目的語を持つことによって、“上”の働きは移動の痕跡と動作の終了を表すようになる。以下、それぞれ、場所性目的語を伴わない場合と場所性目的語を伴う場合についてみてみよう。

４．３．１場所性目的語を伴わない場合

(20)早上五点就跑上了。(**汉**) ＜朝の五時から走り始めた。＞
(21)外面又**飘**上雪花了。(**汉**) ＜外は雪が降り出した。＞
(22)“运七”去年就在国内**飞**上了。(**汉**) ＜「運七」はすでに昨年から国内で運行が始まった。＞
(23)孩子**们**划上船了。(**汉**) ＜子供たちは船を漕ぎ始めた。＞
(24)你看，那只**蚂蚁还**没死，又爬上了。(**汉**) ＜ほら見て、あの蟻はまだ死んでないよ、また動き出したよ。＞

(25)他自己洗上照片了。(汉)＜彼は自分で写真の現像を始めた。＞

(20)～(25)の例からわかるように、“上”はこれらの文中において、開始／継続相を表すことがわかる。これらの例文の語尾には全て“了”がついているが、李1990では、過去現在進行形（発話時を基準点とし、動作は発話する前から始まり、現在も持続している状態）であると説明した。
これらの動詞の起点、継続、発話時点を図３のように表すことができる。
（図３）



なお、“走”類に属する動詞にも二つの解釈ができる場合があるが、

(26)他**买**上菜了。(彼は野菜を買えた。)
(彼は野菜を買い始めた。)
(27)在**这张纸**上写上字了。(この紙に字が書けた。)
(この紙に字を書き始めた。)

これは史1999で説明したように、語用論的な問題となる。「彼は野菜を買えた。」や「この紙に字を書けた」という時は、“**买**, 写”という動作の内部過程に注目したのではなく、“**买**, 写”という動作の実現に焦点を当てたのであり、“**绣**”類の多義性の解釈とは異なる。

４．３．２場所性目的語を伴う場合

(28)白色的芦花 , 随**风飘**上天空。(通)＜白いアシの花は風に任せて空を舞う。＞
(29)眼泪忽地涌上眼眶 , 我**转过脸**, 眼光落在桌上的宣**纸**上。(通)＜目に涙がいっぱいたまり、私は顔をそむけ、目線を机の上にある画仙紙に落とした。＞
(30)我**们**全家都要搬上山。(汉)＜私たち一家みんな山の上に引っ越さなくてはいけない。＞
(31)他慢慢走上台**阶**。(汉)＜彼はゆっくりと階段を上がって行った。＞
(32)跳上窗台往外看。(汉)＜窓台に飛び乗って、外を見た。＞

(33)一口气跑上了三楼。(八) ＜一気に三階まで駆け上がった。＞

(28)～(33)を見てみよう。これらの文ではいずれも動詞の終点を表している。(21)と(28)では、おなじ“飘上”が文中にあるが、(21)では、動詞の動態的開始を表し、(28)では、動作の終了を表す。これは目的語との関連性によるものである。では、なぜ場所性目的語が文中に存在すると、“上”の働きに変化が生じるのだろうか。それは、文中に場所性目的語が存在すると、場所性目的語と動詞の位置関係を明らかにするため、“上”が本来持つとされる「下から上に上がる」という基本義や「近づく」という派生義が機能するようになる。この類に属する動詞の多くは移動動詞であるため、山梨1995：209は、ある対象が、ある方向に移動していく場合、状況によっては、移動の知覚的な痕跡が、ある一定の方向への視線の移動を可能とする軌道のイメージに重ねられていく。と述べたように。これらの動詞には移動した痕跡が残るため、動詞の動態的継続は移動の痕跡となる。図に示すと図４のようになる。

(図４)

動態的継続　　終点

(移動の痕跡)

移動動詞の動態的継続は移動の痕跡に変わることができるという観点から、筆者は、刘1998の“江涛走上高台阶，拉了一下门铃。”の“上”というのは完了相を表すと同時に移動の痕跡を表すこともできるため、「階段」に身体が触れた瞬間から目的地に到着するまで、“走上”を用いることができると考える。

５．おわりに

本稿は“上”の文法的働きについて動詞の動態的持続性の観点から考察を行った。以下本稿で考察してきた内容を簡単にまとめたい。

筆者は“上”を準アスペクト助詞とし、共起する動詞の動態的持続性により開始／継続相や完了相を表すことができると考える。

A)“闭”類＋“上”…完了相

B)“绣”類＋“上”…開始／継続相、又は完了相

C)“走”類＋“上”…場所性目的語なしは開始／継続相

場所性目的語有りは完了相

今回、筆者は動詞の動態的持続性に注目し準アスペクト助詞の“上”を考察対象としたが、今後更に“起来”や“到”を動態的持続性の観点から考察し、“上”との違いを明らかにしたい。

注

（1）副词、接尾辞などの説もある《现代汉语语法研究的现状和回顾》p.98、p99を参照。

（2）起点と終点を持たない動詞。

（3）起点を持つが、終点を持たない、継続性が弱い動詞。

（4）起点、終点、継続性を持つ動詞。

（5）継続性と終点を持つが、始点を持たない。

（6）马1981では、持続性動詞を“等”類、“看”類、“挂”類に分類した際に、“看”類と“挂”類を区別する際に動態的持続であるのかそれとも静態的持続であるのかという基準を用いたが、“等”類に関しては、“是＋ T ＋前＋ Vb2+ 完＋的”という形式に当てはまるかどうかという基準を用いたため、本稿の“绣”類と“走”類は基本的に马1981の“挂”類と“看”類に相当するが、本稿の“闭”類と马1981の“等”類に違いがある。

＜用例出典＞

（八）＝吕叔湘主编1999.《现代汉语八百词 增订本》，商务印书馆

（通）＝刘月华主编1998.《趋向补语通释》，北京语言文化大学出版社

（实）＝刘月华等1983.《实用现代汉语语法》，商务印书馆

（汉）＝孟琮等1999.《汉语动词用法词典》，商务印书馆

なお、出典の明記のないものは作例であるが、すべてインフォーマントのチェックを受けている。

＜参考文献＞

方梅马2000.《自然口语中弱化连词的话语标记功能》，《中国语文》第 5 期

房玉清1981.《助词的语法特征及其分类》，《语言教学与研究》第 4 期

郭锐1993.《汉语动词的过程结构》，《中国语文》第 6 期

胡裕树／范晓主编1995.《动词研究》，河南大学出版社

李临定1990.《现代汉语动词》，中国社会科学出版社

刘月华等1983.《实用现代汉语语法》，商务印书馆

刘月华主编1998.《趋向补语通释》，北京语言文化大学出版社

刘月华等2001.《实用现代汉语语法 增订本》，商务印书馆

吕叔湘主编1980.《现代汉语八百词》，商务印书馆

吕叔湘主编1999.《现代汉语八百词 增订本》，商务印书馆

马庆株1981.《时量宾语和动词的类》,《中国语文》第２期

孟琮等1999.《汉语动词用法词典》，商务印书馆

木村英树1983.《关于补语性词尾“着／zhe／”和“了／le／”》,《语文研究》第２期

史锡尧1993.《动词后“上”“下”的语义和语用》,《汉语学习》第４期

张谊生2002.《助词与相关格式》，安徽教育出版社

朱德熙1982.《语法讲义》，商务印书馆

朱之一1987.《现代汉语语法研究 de 现状和回顾》，语文出版社

荒川清秀1985.「“着”と動詞の類」『中国語』７月号，大修館書店

荒川清秀1989.「補語は動詞になにをくわえるか」愛知大学外国語研究室『外語研紀要』第13号

池上嘉彦1981.『「する」と「なる」の言語学』，大修館書店

大橋志華2001.「動補構造「動詞＋“上”」に対応する日本語表現について」,『日中言語対照研究論集』第３号

＜補足＞

本稿の主要な論点については鈴木、本間の両人の検討を経て、主な草稿は鈴木が作成し、のちに本間が校正、例文選定と日本語訳を行った。なお、全ての例文についてはネイティブチェックを受けている。